

発行 貫汪館
発行日 平成二十二年五月十二日
森本邦生
広島県廿日市市宮内一四八〇

平成22年 第1回居合講習会

平成22年3月7日(日)廿日市市立七尾中学校武道場において、本年第1回目の居合講習会が行われました。

今回は、「抜付け」をテーマとして、愛知、岡山等から多数の方が講習会に参加されました。今回の内容は、正しく正座する稽古から始まりました。しかし、ほとんどの方が所謂つくった型であり、なかなか正しく正座することができませんでした。その後、先生がワイヤーで作成された人形を使用し、力みのない状態における正しい体の位置関係について、懇切丁寧に教示いただきましたので、本来あるべき姿について、参加者一同いつも以上に理解を深めることができました。

(文責 竹本 康祐)

今回の抜付けの講習では、座した状態から刀を抜くまでの姿勢について、先生にワイヤー人形を用いて説明していただいたので、緩んだときの体の位置関係を容易に理解することができました。しかし、私は以前から右手が強すぎることを指摘いただいてきたのに、右手を使うまいとした意識が強すぎた結果、かえって力が入っていたように思います。常に力を抜いた体の状態をイメージして、少しでもそのイメージに近づけるようこれからも稽古を続けたいと思います。

(竹本 治恵)

3月7日(日)今年最初の「居合講習会」に参加しました。講習会では、袴さばき・座姿勢を天地のつながりの中で、手は鞘・柄に掛けるのではなく掛かる。「抜付け」では刀は抜くのではなく、自然に刀は抜けるとゆうこと。全ての動きを天地のつながりの中で肚を中心にして無理無駄の無いように自然に行うことの難しさを感じることができました。また、自分の想いを無くし、動きを自然に刀に任せる事も学びました。今後、今日の講習会で学んだ事を稽古に生かして行きたいと思えます。

(片岡 潤一)

このたびの居合講習会では、何もしなければ自然に刀が抜けているという抜付けを得るために立つこと、座るといふことから稽古をしていきましたが、自分自身はまるで立つこと、座ることができていないのだという嫌というほど気付かされました。この経験をもとに柔術の稽古でもこれからさらに繊細に自分の状態を感じる稽古を心がけたいと思えます。

(竹林 哲也)

3月7日に行われた、居合「抜付け」の講習会に参加させていただきました。

今回は他流派の形の稽古もあり、刀を抜くにも体の使い方や考え方などに違いがあるのだと知り驚きました。また、体の中心で刀を持つ事ができず、刀の重みに引きずられてバランスを崩していたように思います。講習会の初めに、先生から「何かしようとするからできないので

あって、何もしなければできない。」とお話がありました。私は手順にばかり気を取られ思うように動くことができませんでした。現在はあまり稽古に出られないので、稽古に限らず、日常の中で物を扱う時も体の中心で動けるように気をつけたいと思えます。

(埴田 真理子)



「広島護国神社奉納演武」

平成22年4月4日(日)広島護国神社儀式殿において、貫汪館主催の奉納演武を行いました。

晴天に恵まれた桜が満開の中、今回の演武には貫汪館門弟24名を含む合計27名が参加しました。

本殿での正式参拝の後、演武に先立ち貫汪館顧問である岡田先生より「みなさん日々稽古を頑張っていることと思います。私自身40年間稽古を積む中で、なぜ稽古を続けているのか考えることがありますが、結局は自分を鍛えて強くするためにですが、そうする事で自然と周りの人に優しくなれます。これが日々の稽古に繋がると感じるようになりました。文武両道の武とは強さだけでなく優しさをも兼ね備えることです。

また40年のうち、色々な方々から武士道についても話を聞いてきましたが、ある方は「命を捨てる事が武士道である。」と語られました。

ただ、その言葉の奥にあるのは、単に命を粗末にするという事で

はなく命がけになるということ、つまり、全力で生きる覚悟を持つて家族や国を守り、社会にも奉仕できる強く優しい人間になるという事なのではないかと思えます。

みなさん、これからもお互い稽古に励みましょう。今日は神様の前で演武ですが、どうぞ頑張ってください。」とお言葉を賜りました。

また森本先生から「今日は今までの稽古の節目となる大切な奉納演武です。それぞれが落ち着いて素直な心で演武をして下さい。今朝方、裏山を見ると5、6匹の猿が現れ、そのうちの2匹が木の上で四つに組み、相撲をとり始めました。細い枝の上でバランスをとりながら立つだけでも大変です。人間であれば落ちるところでしょうが、猿達には全く力みというものがありませんでした。みなさんもうまく演武して見せようと考えるとかえって力んでしまいました。素直な気持ちで怪我の無いよう演武をしてください。

それから、子供たちは最初から最後まで演武です。自分の演武が終わったからといって騒いんだり、ごそごそしたりすることのないよう努力してみてください。」とお話の後、演武を開始しました。



岡田先生の居合に始まり、子供、大人の柔術、居合と続き、最後の森本先生の居合までプログラムも順調に進行し、無事に演武を終えることができました。

演武終了後、森本先生より「今回は今まで以上に良い奉納が出来たと思います。特に、子供たちは普段の稽古よりも大きな声が出ており自分たちが修得した事を素直にそのまま演武に活かせていましたので感激しました。大人の演武は上級者の上達については言うまでもないのですが、いつも動きのかたい初心者の方々も力みなく演武されていました。これは、奉納演武を目指して稽古をされた成果がよくでていたと思います。」との総評をいただきました。

私個人の感想を述べさせていただきますと、今回は前回初めて進行の補助をおこなった時の反省を踏まえ、段取りの確認等の事前の準備、アナウンスする技の名前を言うタイミングなどにも気をつけることができたと思います。

しかしながら、舞台袖で転んだり、子供の受けを忘れそうになったりと新たな反省点もありました。そんな中で自分の演武を行なったのですが、大勢の参拝客の方々をほとんど意識することなく、無心で演武できました。その後、演武を初めて先生に褒めていただき、大変感激しました。

この度の経験を忘れず今後とも稽古に精進して参ります。続いて子供たちに演武の感想を書いてもらいましたので以下のとおり掲載いたします。

(文責 濱村 多賀司)

護国神社奉納演武の感想

ぼくは、声がしつかり出せてうれしかったです。裏投がちょっとだめだと思いました。一番むずかしかったのは返投でした。最後に、森本先生に褒められたのでうれしかったです。森本先生をみて、自分も刀を使いたいと思いました。

(松尾 厚輝)

プログラムが始まりました。私は落投が苦手なので心配でした。本番では上手にできて、とてもうれしかったです。

(向井 薫子)

私は今回で護国神社の奉納演武は二回目です。演武は稽古通りできたけど声が小さいと言われたので、次は声に気をつけたいです。

(中郷 野々花)

広島護国神社への奉納は二回目で、心を真っ白にして演武できました。森本先生にも褒められたのでうれしかったです。

(中郷 資)

自分の順番の時とても緊張しましたが、先生に教えられたようにするときっちりきれいにできました。早く新しい技を覚えたいです。

(向井 啓昭)

まず、反省点が三つあります。一つ目は年下の子達と境内を走りまわったり、ふざけたりした事です。二つ目は打ち合う時に竹林先生に気迫負けした事、三つ目は帰り際、親に言われるまで先生にお礼を言わなかった事です。良かった点はあまり緊張せず、落ち着いてできた事です。悪い点が三つもあるので二つは直したいです。

(中郷 稔)



昇級・昇段者

平成22年4月の審査において、次の方が昇段されました。おめでとうございませう。

残念ながら本年5月を持ちまして、米国に帰国されることになりました。これまで、柔術の稽古を通じてたくさんの方のことを学ばれたことと思います。帰国されても、これまでの経験を生かしてご活躍されることを期待しております。

初段

エリック・フルフォード

平成22年度行事予定

昇級・昇段審査

6月26日(土)

日本武道学会第43回大会

9月2日(木)

3日(金)

明治神宮奉納古武道演武大会

11月3日(水)

日本古武道厳島神社演武大会

11月28日(日)

昇級・昇段審査

12月18日(土)

稽古納め・廿日市天満宮

12月26日(日)

奉納演武